

『その子らしさを育む教育とは』

9月17日から18日にかけて、「女と男 笑顔で築く参画社会」をテーマとした『男女共同参画フォーラムinやまなし』が、開催されました。私も委員も都留市女性団体連絡協議会の会員と一緒に研修を目的とし参加しました。内容は、国の男女共同参画推進本部報告、講演そして4つの分科会や全体討論などであり、多くのものを勉強させていただきました。

今回は、そのフォーラムにおいて「男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」その子らしさを育む教育とは」をテーマとした分科会に、パネリストとして市内から出演しました浅川早苗さん（東桂小学校教諭）にお話を伺いました。



学 校教育における問題点は 何ですか？

学校は男女平等であると考えられていますが、必要のないところで男女を分けたり(男女別名簿)、一般社会と同様、男の子は強くたくましく、女の子はやさしくかわいくといった男女を枠にはめた固定的なメッセージ(隠れたカリキュラム)が送られています。

学校は、本来一人ひとりの個性や可能性を伸ばすところなので、男女という限定された枠組をなくしていくこと(ジェンダーフリー)が必要だと思います。

隠れたカリキュラムとは具体的にどういうものがありますか？

○いつも男の子が先で、女の子が後という意識を植え付けてしまう『男女別名簿』の影響はとても大きいと考えられています。

○リーダー的役割は男子、補佐的役割は女子といった男女の

固定的な役割分担があります。

○女の子の色は赤、男の子の色は黒(ランドセルを始めとして)、男の列、女の列といった不必要な区別があり、一人ひとりの子どもを見るのではなく、男子、女子をひとまとまりとして見てしまうことなどです。

学 校教育ではどのような取り組みをしていますか？

子どもたちが『男らしく』『女らしく』ではなく、『自分らしく』生きられるような授業実践を仲間と研究しています。例えば、『持ち物の色』をとりあげたり、男女の区別なくいろいろな仕事で働く人たちの写真パネルを作ったり子どもたちに、多様な選択肢を示したりして、子どもたち自身に考えさせるような授業をしています。また、こういった授業を保護者に観てもらったり、PTAの行事で、ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)について考えてもらえるよう、市民活動から生まれた紙芝居をしたりして、学校からも発信しています。

男 女共同参画社会実現に向けた課題と展望は？

男女共同参画社会へ向けての意識改革は学校教育だけでできるものではないと強く感じています。教師、保護者、地域が協同して取り組んでいくべき問題だと思います。幸い、都留市では、平成12年に『都留市男女共同参画基本条例』が全国に先がけて制定され、学校現場でも男女混合名簿の導入が進んでいます。今年度は山梨県でも推進条例及び男女共同参画計画が制定・策定され、男女混合名簿の導入の数値目標が76%と示されました。市民レベルでの推進も目覚ましいものがあります。

学社連携を進め、可能性をいっぱい秘めた子どもたちの選択肢が広がる社会を実現していきたいものです。

浅川早苗さんのプロフィール

浅川さんは、都留市教育協議会『自立と共生研究会』所属、昨年度、教育研究全国集會にレポート提出し、今年度、自立と共生研究会の推進委員。この研究会では、学校教育をジェンダーフリーにする実践に取り組んでいます。また、市民グループWingやまなしで、大型紙芝居を製作し、地域への啓発活動もしています。